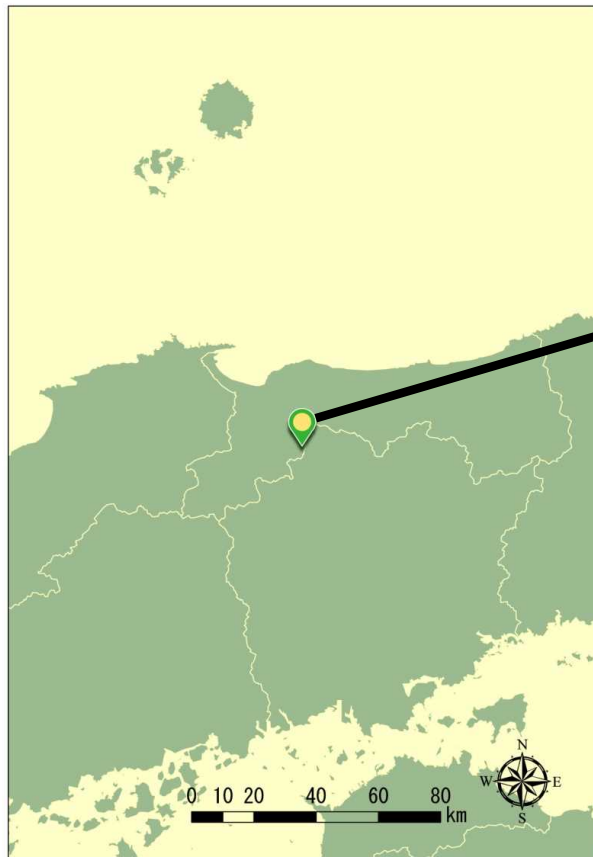
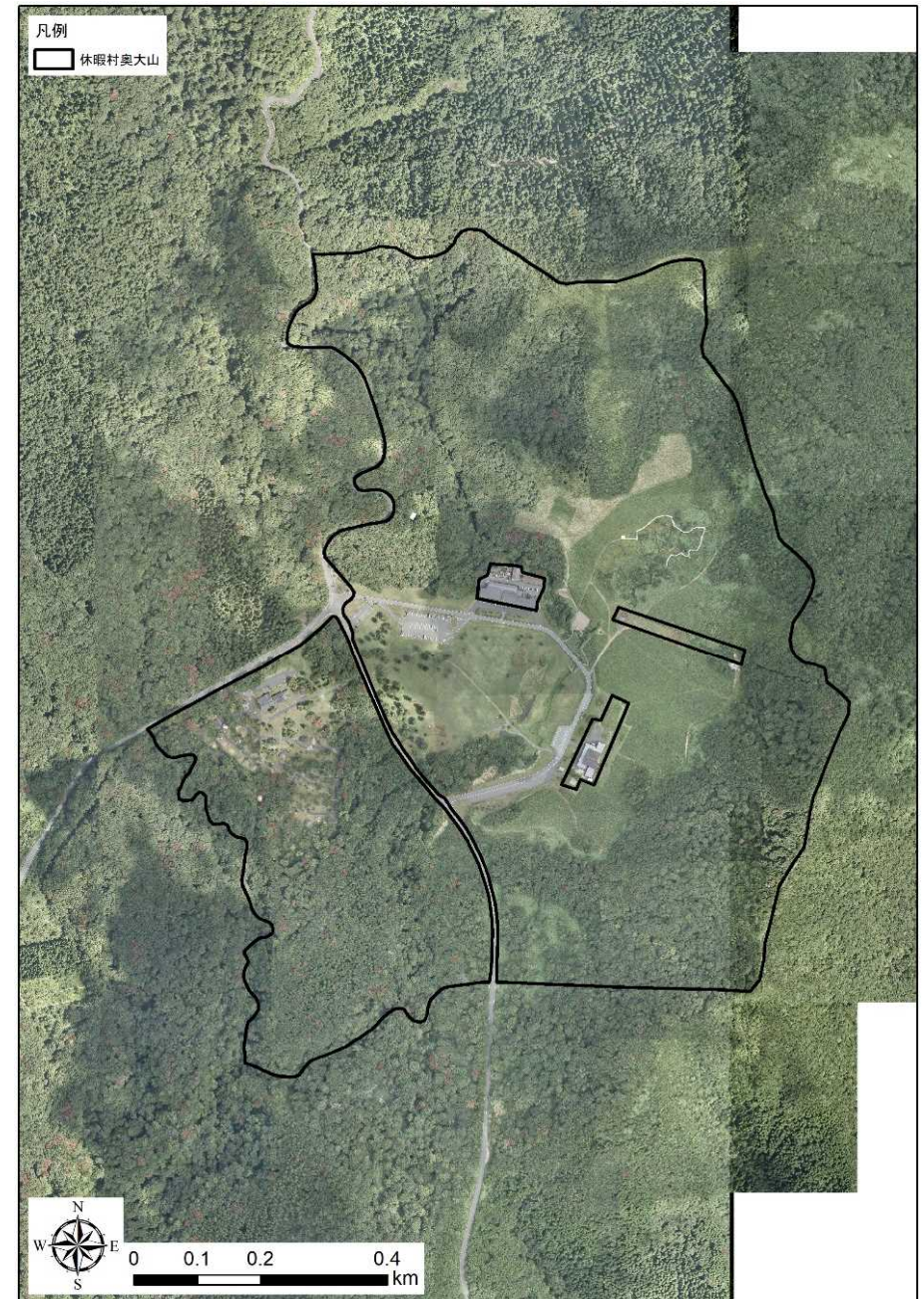


## ◆基礎情報

- 名称：大山隠岐国立公園鏡ヶ成集団施設地区
- 所在地：鳥取県日野郡江府町大字御机字鏡ヶ成
- 面積：105.0ha
- 標高：900m～1100m



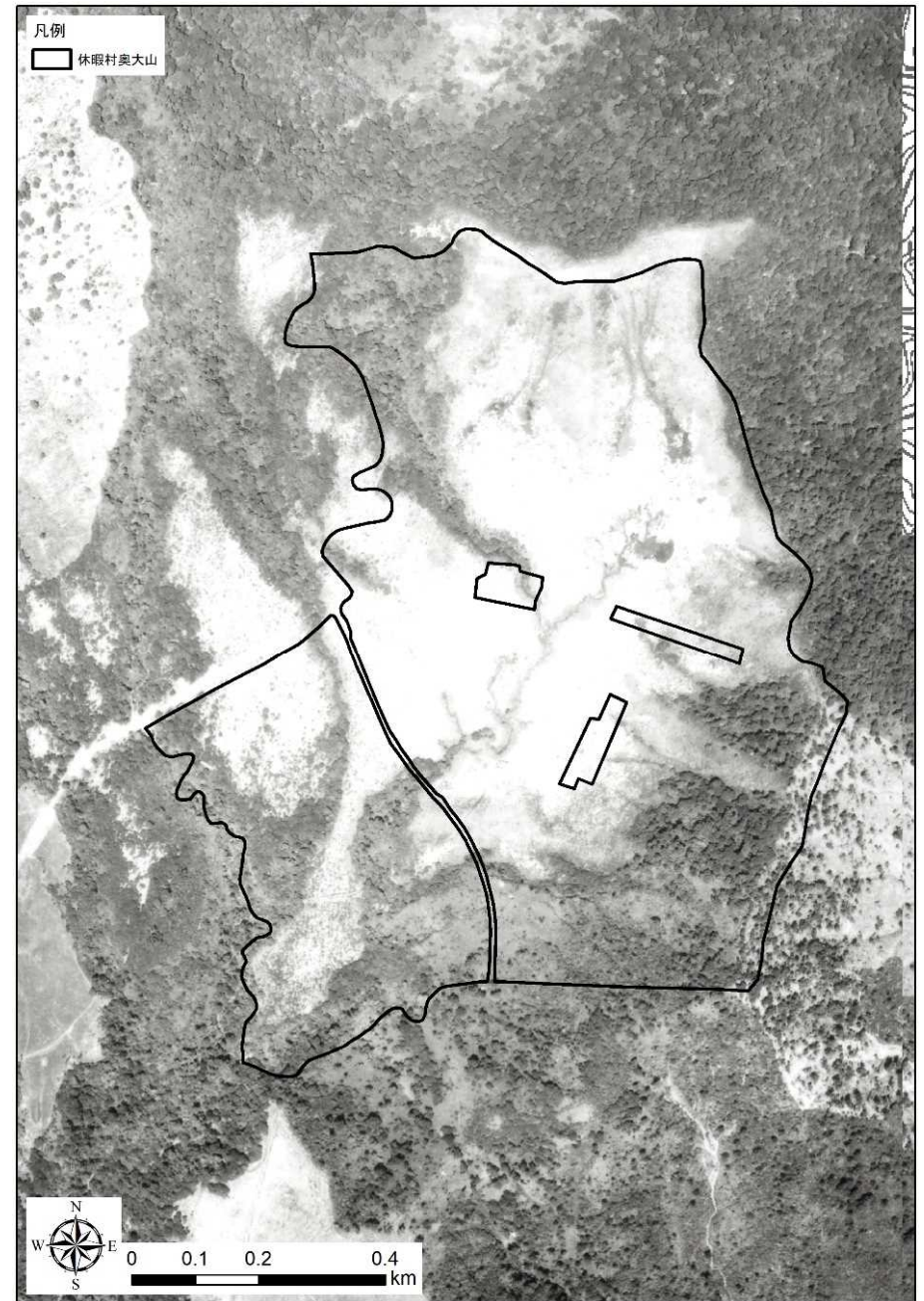
位置図（広域）



航空写真（2020年撮影）

## ◆基礎情報 –過去の様子（1958年）–

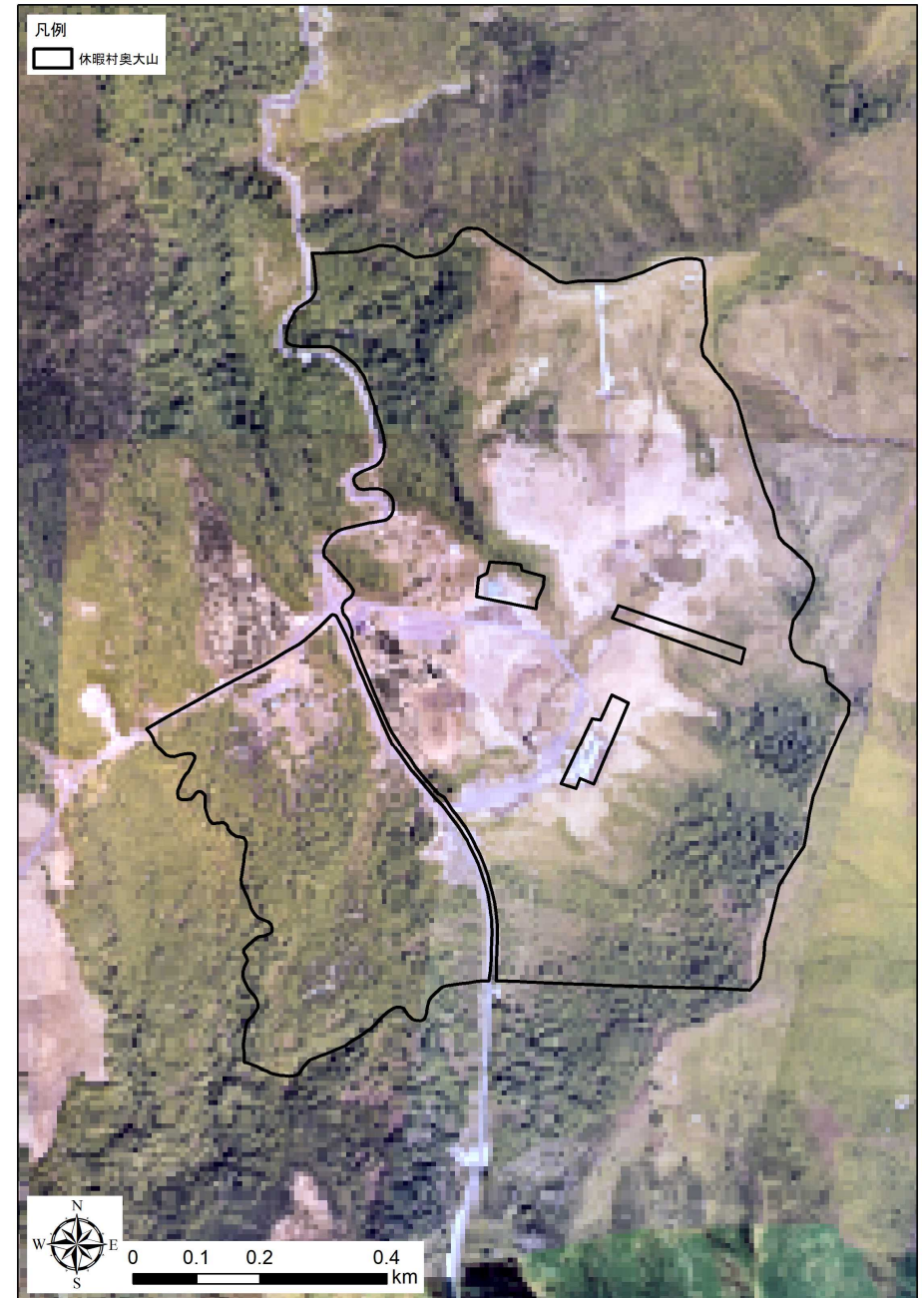
- 主に草原（軍馬の放牧地と思われる）が広がっている。
- まだ宿泊施設等が存在しなかった。



航空写真（1958年 林野庁撮影）

## ◆基礎情報 – 過去の様子（1974年） –

- 1962年に休暇村が開業し、宿泊施設が整備されている。
- 草原の面積は、1958年の比較して大きく変化していない。



航空写真（1974年 国土地理院撮影）

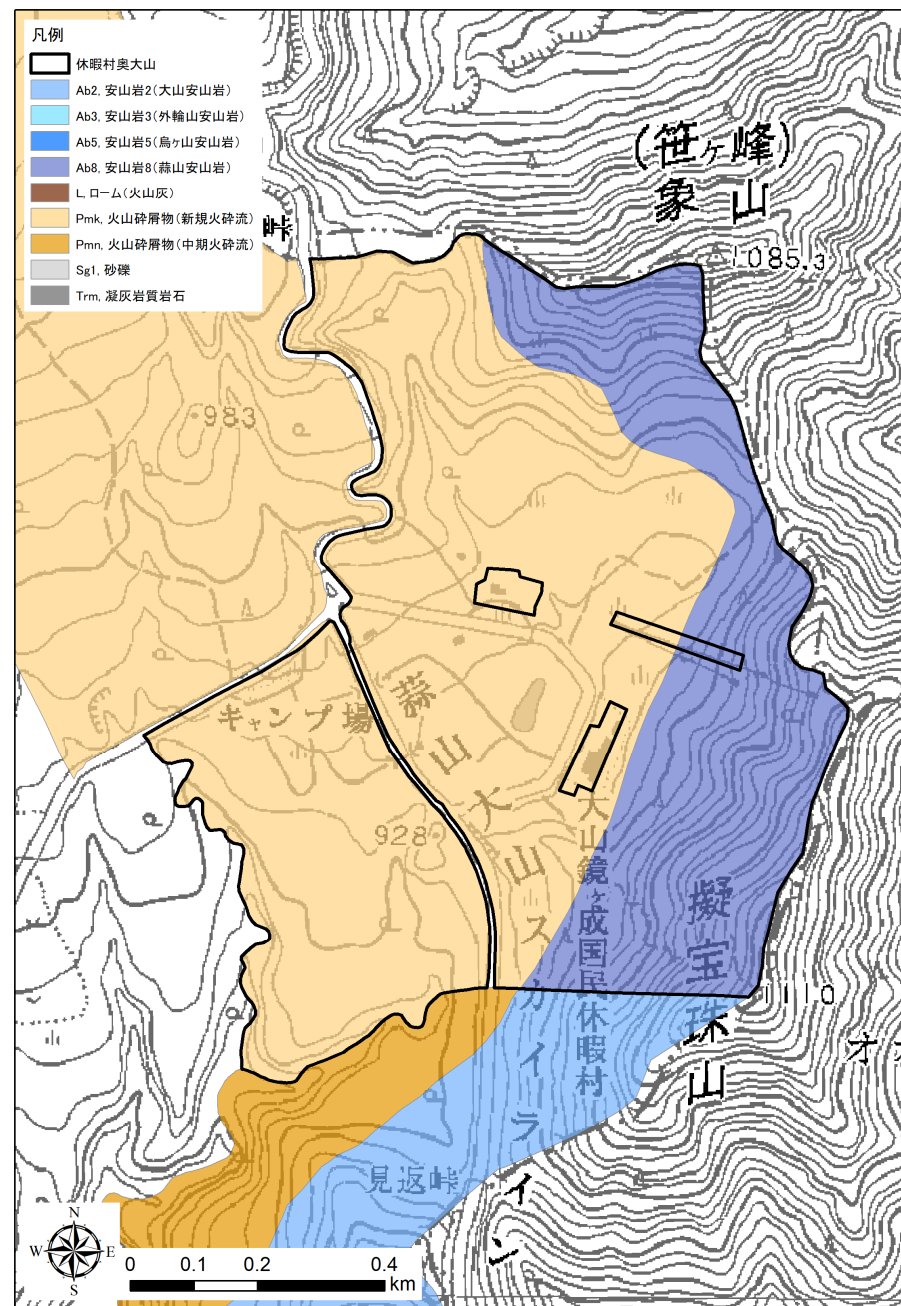
## ◆基礎情報 – 表層地質 –

- 当地域の一帯は、大山・烏ヶ山火山の活動により形成された安山岩や火山灰、火山碎屑物等からなる。表層土壌は黒ボク土である。
- 大部分の表層地質は火山碎屑物だが、敷地の東側には安山岩が広がっている。

### 【補足】

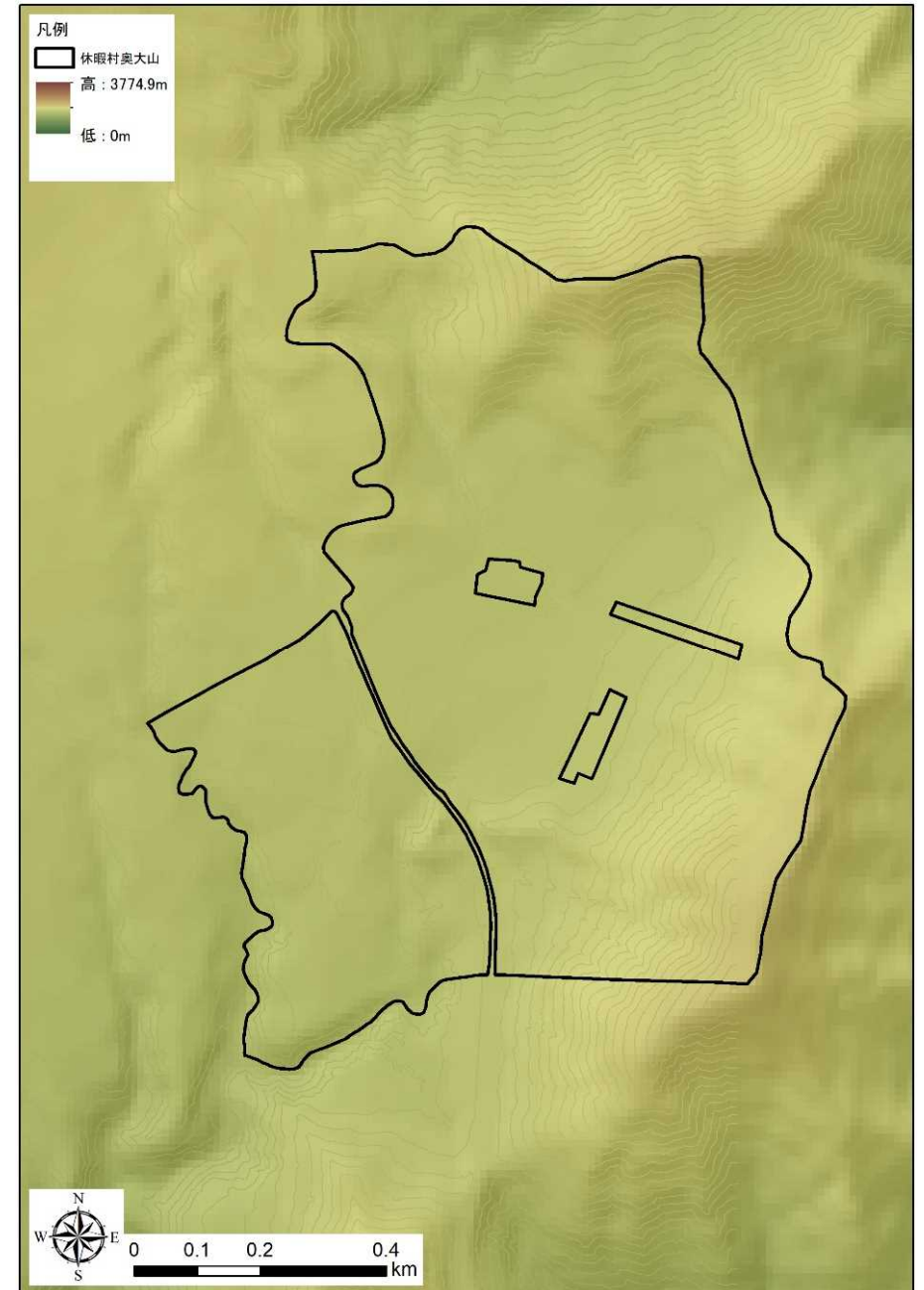
- **ローム（火山灰）**：主に降下火山に由来する火山灰層であり、軽石層を含む。
- **火山碎屑物**：大山火山の名和火山流で、半固結火山性堆積物である。黒雲母角閃石安山岩質の火砕物であり、灰白色～暗灰黒色を呈す。
- **凝灰岩質岩石**：更新世の古期大山半固結堆積物を一括した。凝灰角れき岩質である。

【情報の出典】  
土地分類基本調査  
「表層地質図 根雨・湯本」(1977) 鳥取県  
「表層地質図 赤崎・大山」(1973) 鳥取県



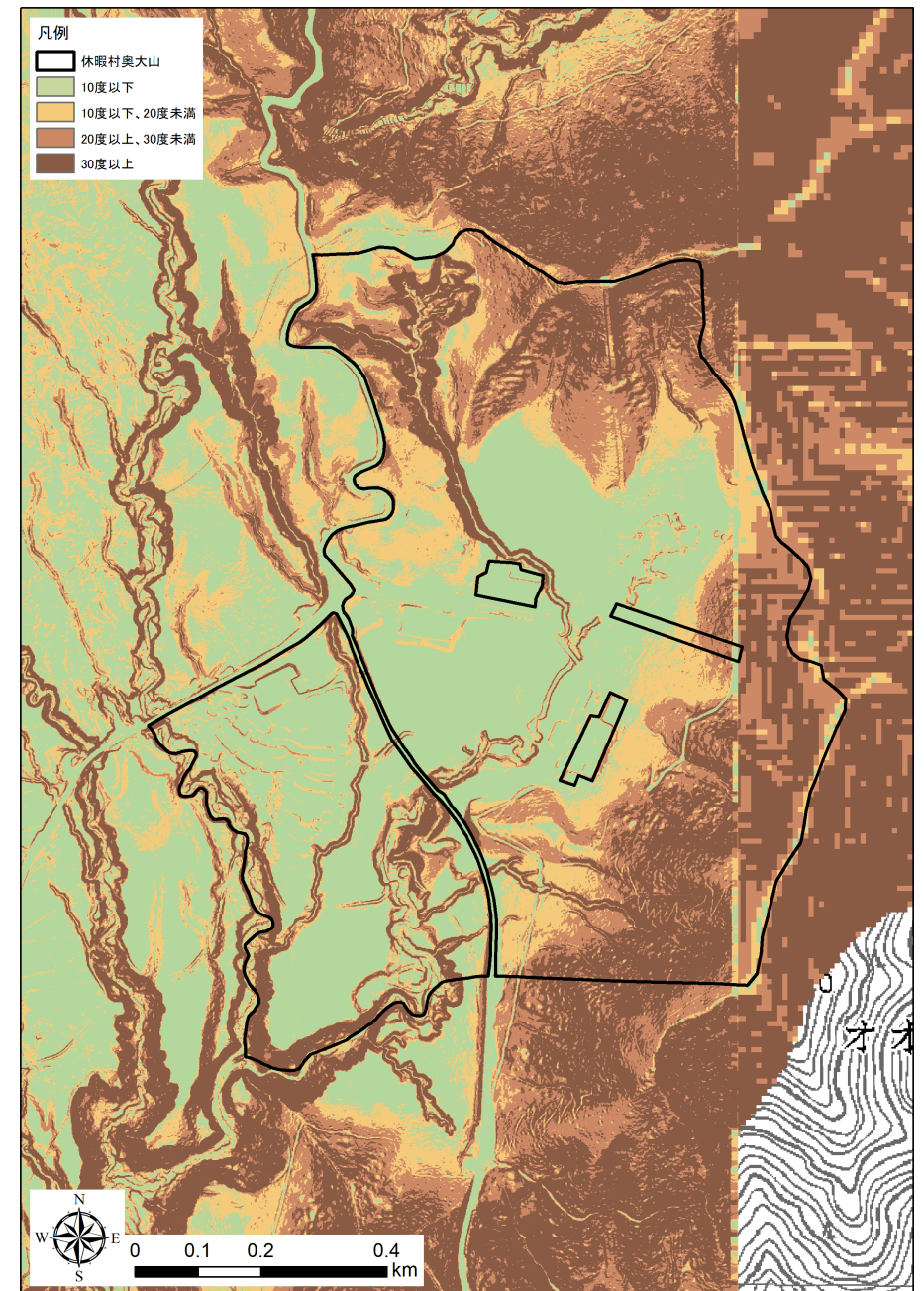
# ◆基礎情報 –地図情報 数値標高モデル–

- 基盤地図情報（国土地理院）の数値標高モデル（10mメッシュ）から陰影起伏を作成し、高低差で色分けしたものを被せて作成した。



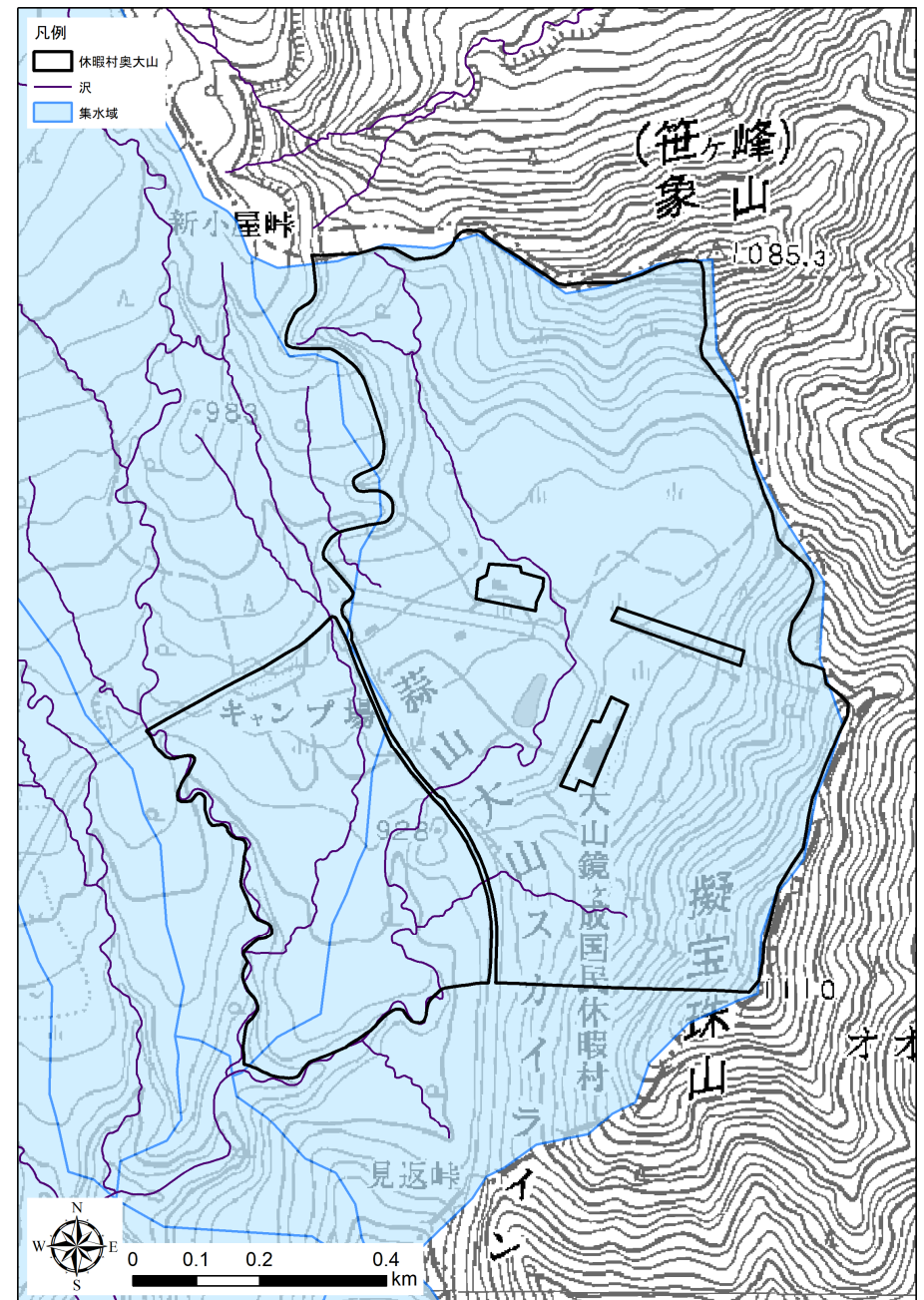
## ◆基礎情報 – 斜面傾斜分布 –

- 数値標高モデルから斜面傾斜分布を分析。
- 30度以上の急傾斜地は、主に像山、擬宝珠の周辺で見られる。
- その他の場所では平地的な環境が多い。



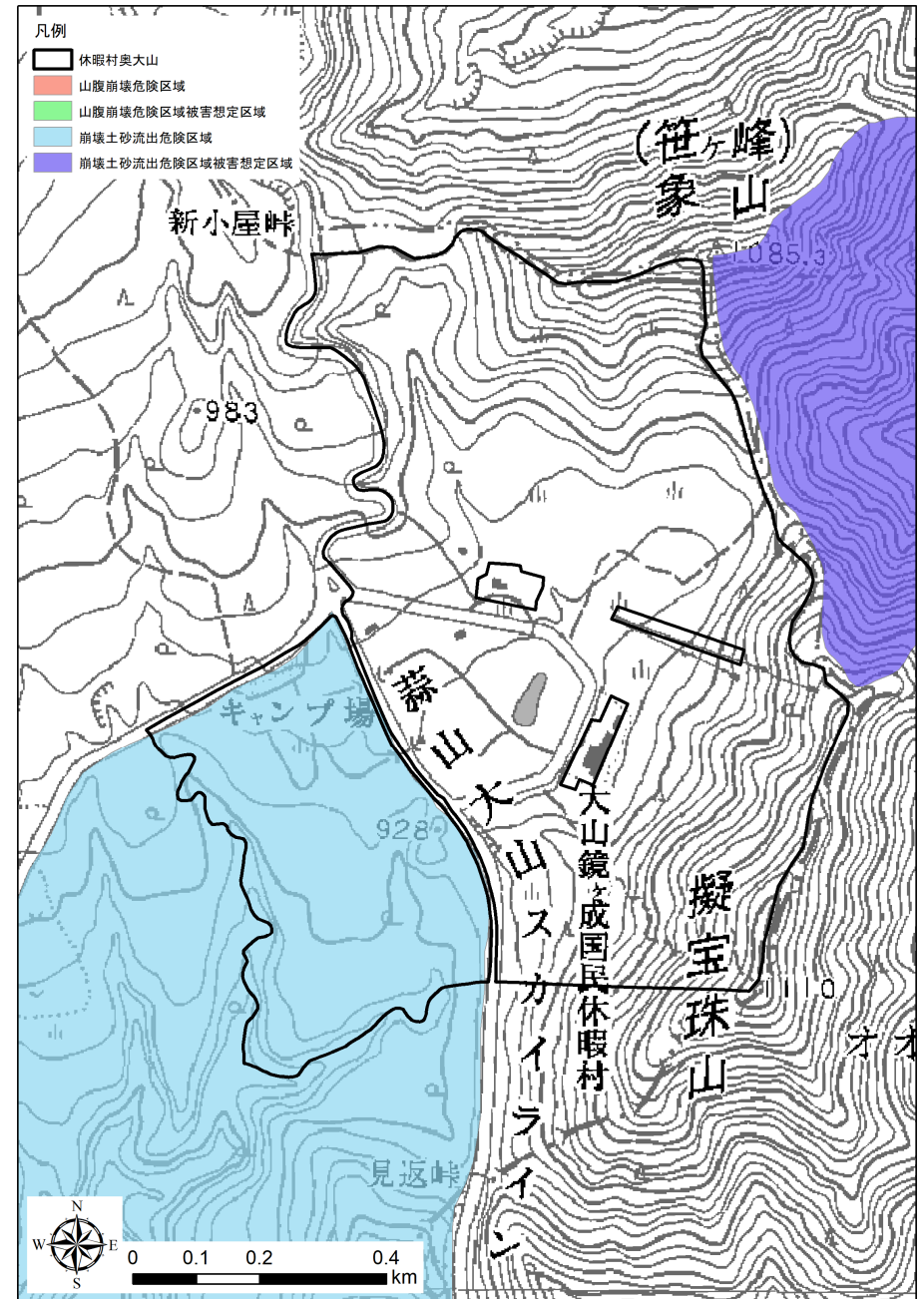
# ◆基礎情報 – 集水域区分 –

- 鏡ヶ成の集水域は2つに区分された。



## ◆基礎情報 –砂防・防災関連の指定–

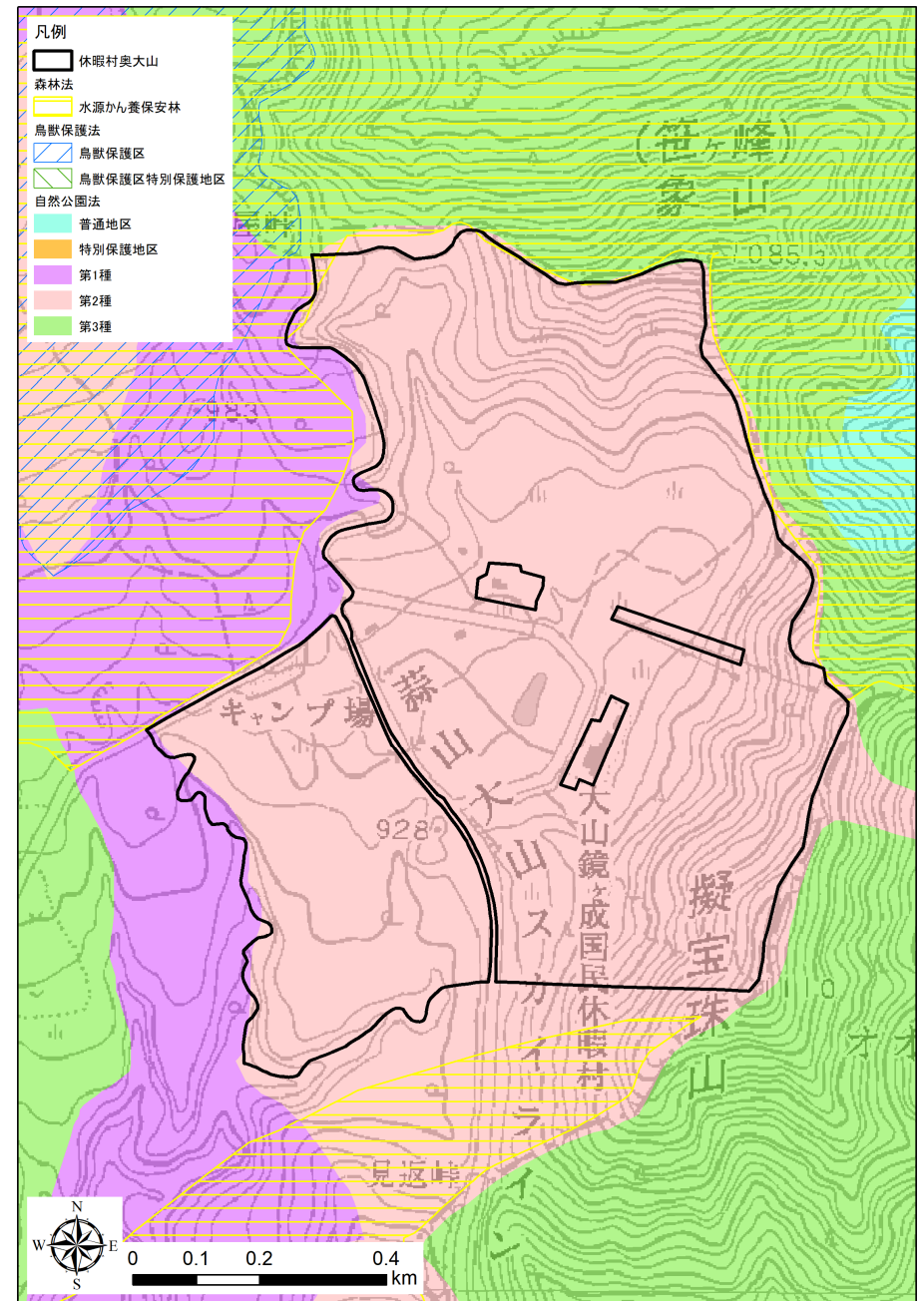
- 森林整備において留意すべき箇所として、砂防、防災関連の指定状況を図示した。
- キャンプ場、学習自然歩道が崩壊土砂流出危険区域に指定されている。





# ◆基礎情報 – 自然環境保全・保護・保安林等の指定 –

- 大山隠岐国立公園や保安林、鳥獣保護区等の位置・範囲を図示した。
- 全域が大山隠岐国立公園区域の第2種特別地域となっており、周辺に保安林や鳥獣保護区などが指定されている。



## ◆基礎情報 – 鏡ヶ成で見られる生き物 –

### ＜植物＞

カタクリやノハナショウブ、マツムシソウ等、一年を通して様々な花々を見ることができる。

### ＜昆虫＞

ウラギンヒョウモン等のヒョウモンチョウ類やヒメシジミが多くみられ、初夏にはアサギマダラが飛来する。

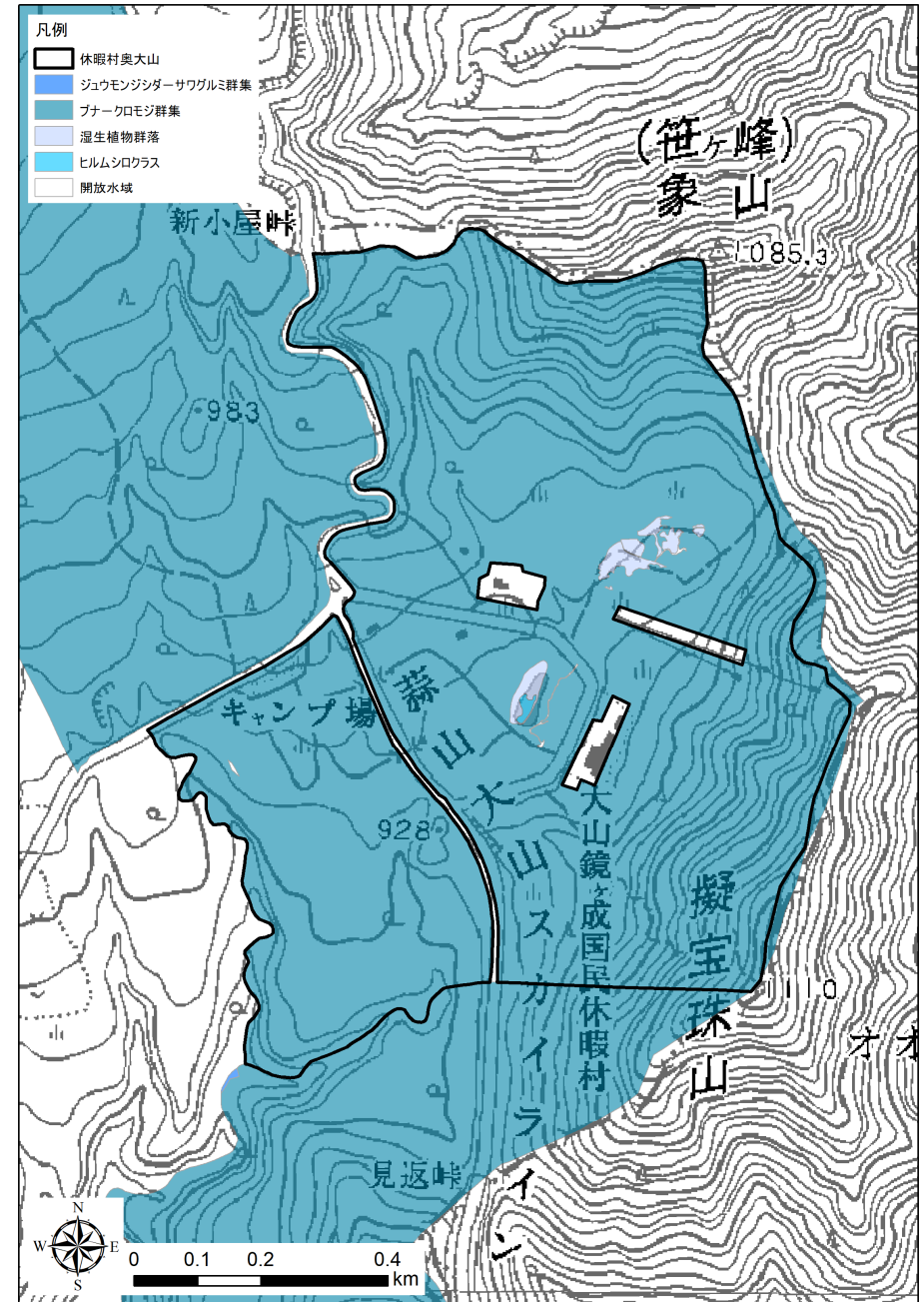
### ＜その他＞

春にはモリアオガエルやニホンヒキガエルが産卵に訪れる。アカハライモリも数多く生息している。



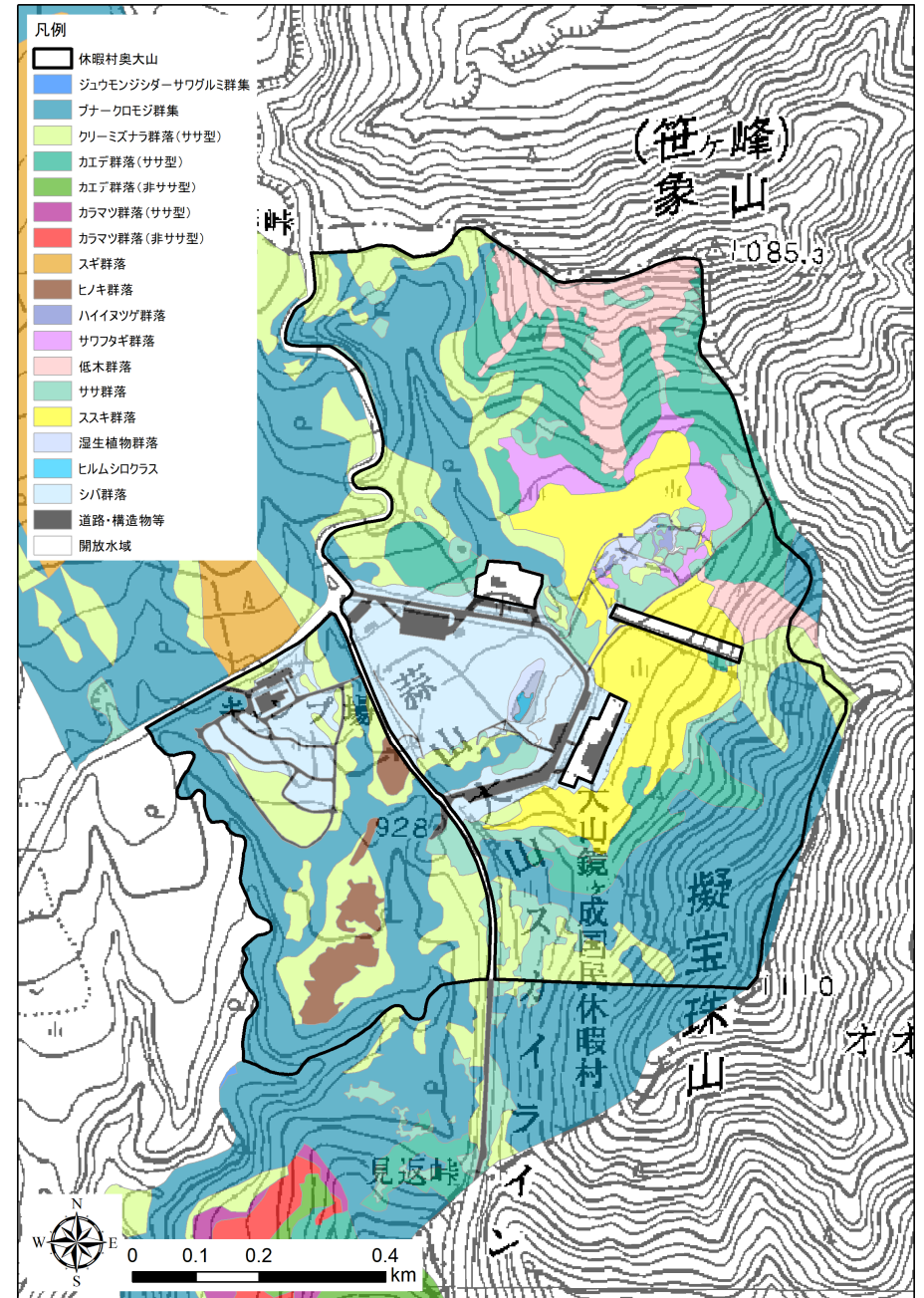
# ◆基礎情報 – 潜在自然植生 –

- 鏡ヶ成の潜在自然植生は、広域にブナ・クロモジ群集が成立すると考えられる。池はヒルムシロクス、湿原は湿生植物群落が成立すると考えられる。



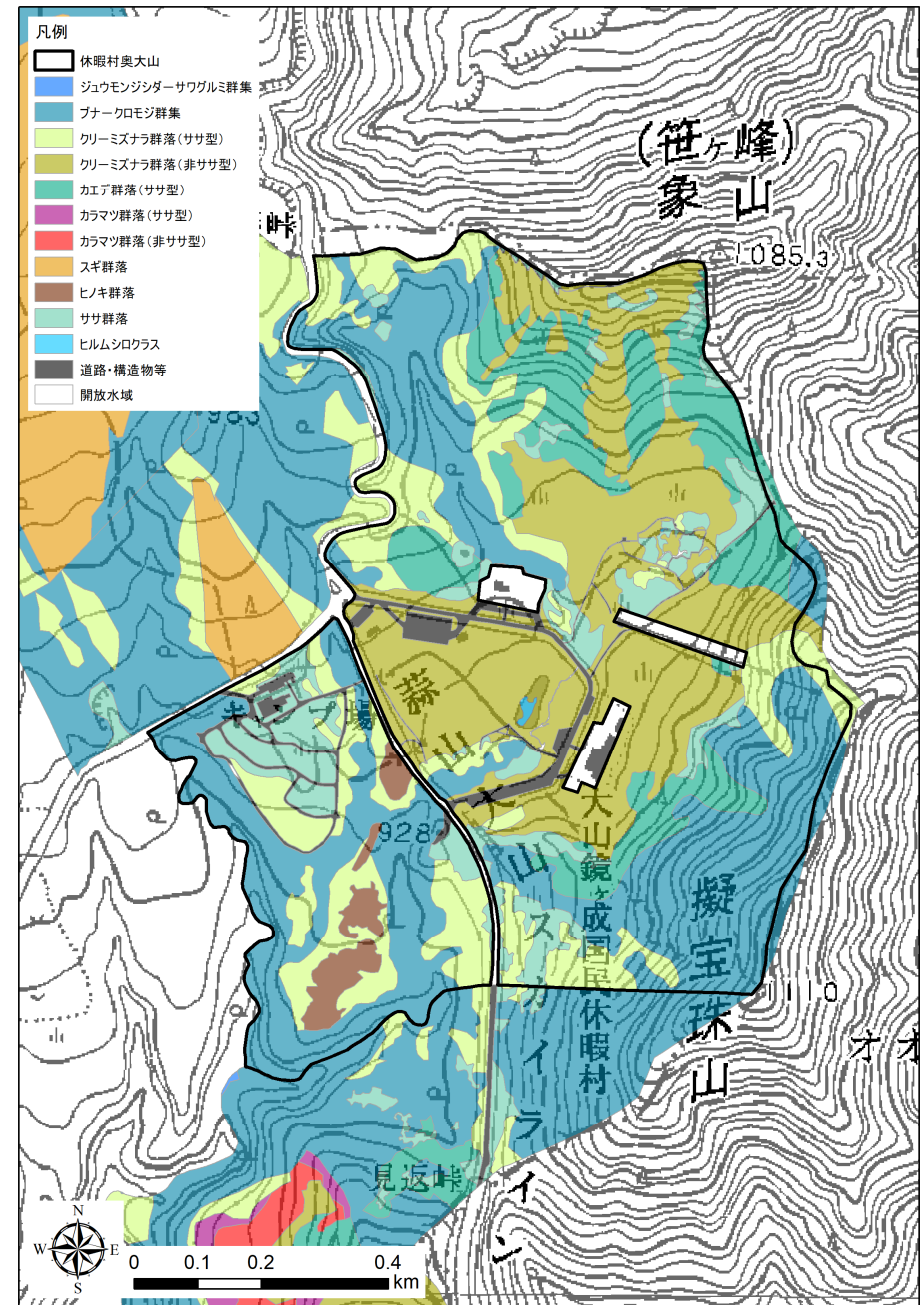
# ◆基礎情報 – 現存植生分布 –

- 山地を中心にブナークロモジ群集が分布しているが、ススキ群落等の草地環境や、低木群落も比較的広く分布している。
- 小面積であるが、湿原（湿生植物群落およびヒルムシロクラス）も存在している。



# ◆基礎情報 – 100年後の植生（放置した場合） –

- 全域で森林化が進み、草原や湿原等の様々な環境は消滅すると予想される。
- 林床がササ型のクリ-ミズナラ群落は、実生による更新が困難なため、遷移が進行しないと予想される。
- 非ササ型のクリ-ミズナラ群落はブナ-クロモジ群落へ、カエデ群落はクリ-ミズナラ群落へ遷移が進むものと予想される。
- 人工林はそれぞれの植栽木が優占しつつも、混交林化が進行すると考えられる。
- ササ草原、湿原もクリ-ミズナラ群落に遷移すると考えられる。

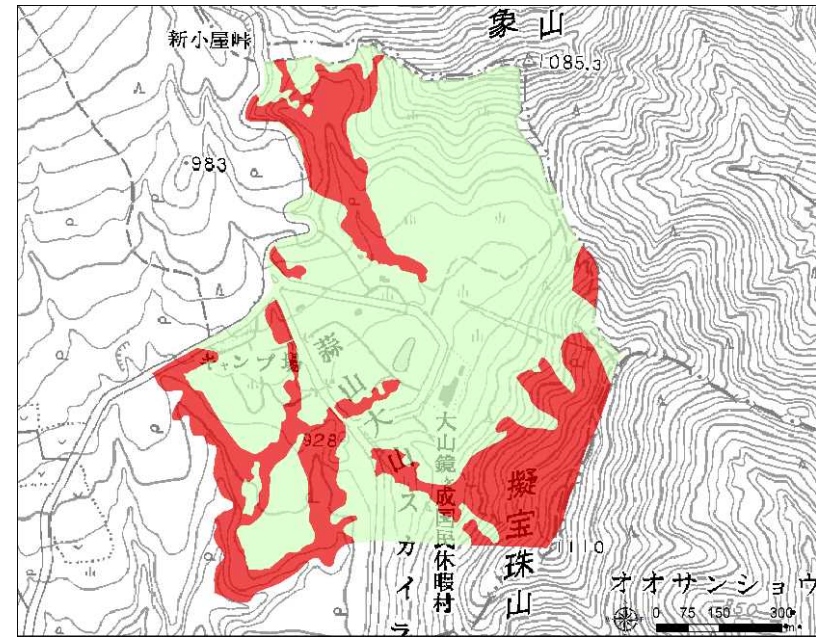


## ◆基礎情報 – 現存植生の詳細 –

森林タイプ	群落名	面積(ha)	割合
落葉広葉自然林	ブナ-クロモジ群集	28.9	31.9%
落葉広葉二次林	クリ-ミズナラ群落	14.2	15.6%
	カエデ群落	11.3	12.4%
常緑針葉人工林	ヒノキ群落	1.6	1.8%
低木林	ハイイヌツゲ群落	0.1	0.1%
	サワフタギ群落	1.9	2.1%
	低木群落	4.8	5.3%
二次草原	ササ群落	5.7	6.3%
	ススキ群落	8.5	9.4%
	湿生植物群落	0.6	0.7%
	ヒルムシロクラス	0.1	0.1%
	シバ群落	9.9	11.0%
その他	道路・構造物等	2.9	3.2%
	開放水域	0.04	0%

※植物社会学では、クリ、ケヤキ、ブナ、ミズナラ、カエデ等は夏緑広葉樹が正式な名称であるが、本ビジョンでは、夏緑広葉樹より一般に使用されている落葉広葉樹を使用する。

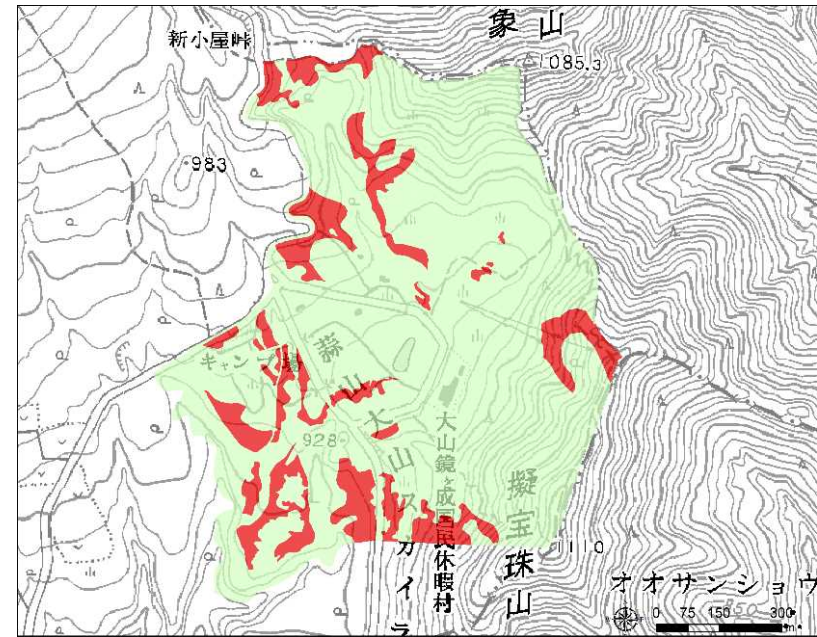
# ◆ブナークロモジ群集



(分布状況)

- ・概観：高さ15～18mの落葉広葉自然林
- ・階層構造：4～5層
- ・種組成：高木層にブナが優占し、アズキナシなどが生育する。亜高木層にブナ、コミネカエデ、低木層にブナ、リョウブ、ハウチワカエデ草本層にチシマザサ、ミズナラ、クロモジ、ヒメモチ、ヤマソテツ、ショウジョウバカマ、チゴユリ、ミヤマイタチシダなどが生育する。
- ・出現種数：9～25種（平均：18.4種）
- ・地形：斜面上部から斜面下部 標高：900～1080m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：象山、擬宝珠山斜面及びキャンプ場周辺
- ・その他の特徴：林床はササが分布している。
- ・遷移：気候的極相林

# ◆クリ-ミズナラ群落

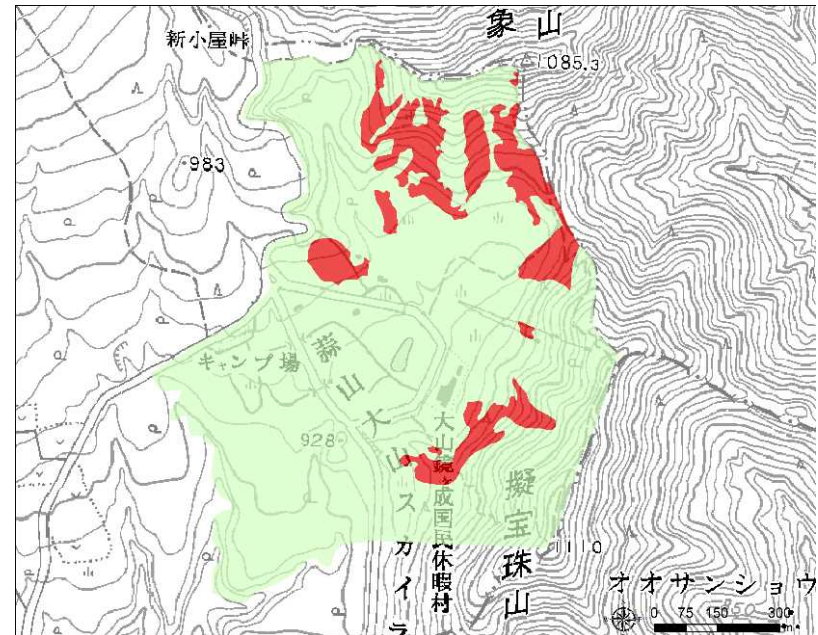


(分布状況)

- ・概観：高さ16～18mの落葉広葉二次林
- ・階層構造：4～5層
- ・種組成：高木層にミズナラが優占し、アカイタヤなどが生育する。亜高木層にナナカマド、アズキナシ、低木層にハウチワカエデ、オオカメノキ、アカイタヤ、コシアブラ、草本層にチシマザサ、ミズナラ、ガマズミ、クロモジ、ヒメモチ、コシアブラ、チゴユリ、タチシオデ、ツルアリドオシ、ミズキなどが生育する。
- ・出現種数：12～26種（平均：18.2種）
- ・地形：斜面上部から斜面中部 標高：900～980m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：象山、擬宝珠山やキャンプ場に点在する。
- ・人為的影響：かつて薪炭林や牧草、採草地として利用されていた。
- ・その他の特徴：林床はササが多い。
- ・遷移：ササが密生している場所は、当面この状態で持続していくと考えられる。



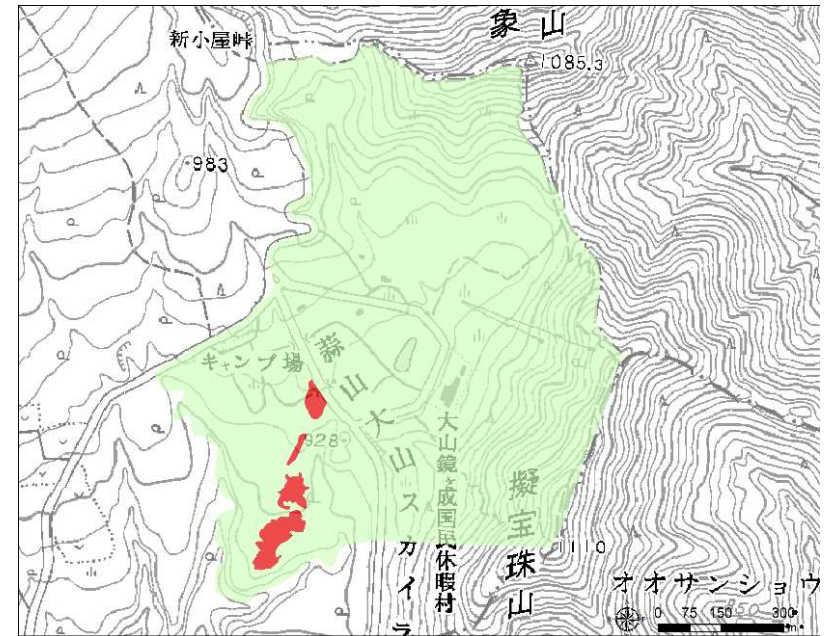
## ◆カエデ群落



(分布状況)

- ・概観：高さ7～12mの落葉広葉二次林
- ・階層構造：2～4層
- ・種組成：高木層にウリハダカエデやイタヤメイゲツなどのカエデ類が優占する。亜高木層にアカイタヤ、低木層にアカイタヤ、ハウチワカエデ、リョウブ、草本層にクロモジ、ウリハダカエデ、ウワミズザクラ、ミズメ、サワフタギ、チゴユリ、シシガシラ、ツルリンドウなどが生育する。
- ・出現種数：24～42種（平均：31種）
- ・地形：斜面中部 標高：930～970m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：象山、擬宝珠山斜面に分布
- ・人為的影響：かつて薪炭林や牧草、採草地として利用されていた。
- ・その他の特徴：林床にササが密生する。
- ・遷移：ササが密生するため、当面この状態で持続し、次第にミズナラ群落に遷移していく。

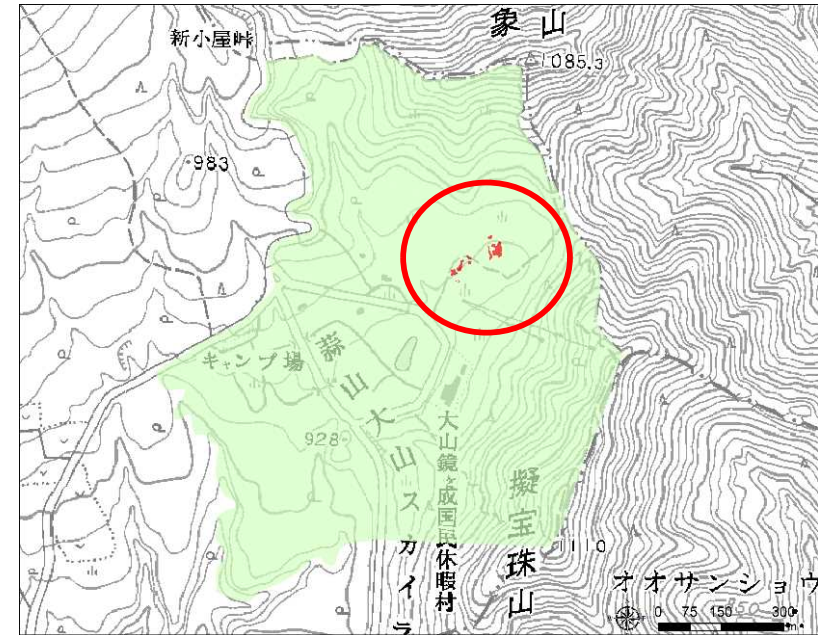
## ◆ヒノキ群落



(分布状況)

- ・概観：高さ9～15mの常緑針葉人工林
- ・階層構造：2～4層
- ・種組成：植栽されたヒノキが優占し、ミズナラが混生する。亜高木層にアカイタヤ、低木層にリョウブ、コシアブラ、アオハダ、草本層にチマキザサ、コシアブラ、オオカメノキ、ウワミズザクラ、ミズナラ、ミズメ、シオデ、ユキザサなどが生育する。
- ・出現種数：23～30種（平均：26種）
- ・地形：平地 標高：890～920m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：自然学習歩道に分布
- ・人為的影響：広葉樹林化のためにヒノキの間伐がされており、ミズナラやブナも混生。林床が明るくなっている。
- ・その他の特徴：林床が明るくなったことによりササの繁茂が懸念される。

# ◆ハイイヌツゲ群落



(分布状況)

- ・概観：高さ1.5～2mの常緑広葉樹低木林
- ・階層構造：2～3層
- ・種組成：低木層にハイイヌツゲが優占し、リョウブなどが生育する。草本層にサワフタギ、ハイイヌツゲ、チマキザサ、コナスビなどが生育する。
- ・出現種数：6～9種（平均：8種）
- ・立地：平地 標高910～930m
- ・地形：鏡ヶ成湿原内に分布
- ・人為的影響：湿原内の維持管理が行われている。
- ・遷移：地下水位が比較的低く、陸地化が進んでいる場所と考えられるため、放置されればこのまま樹林化すると考えられる。

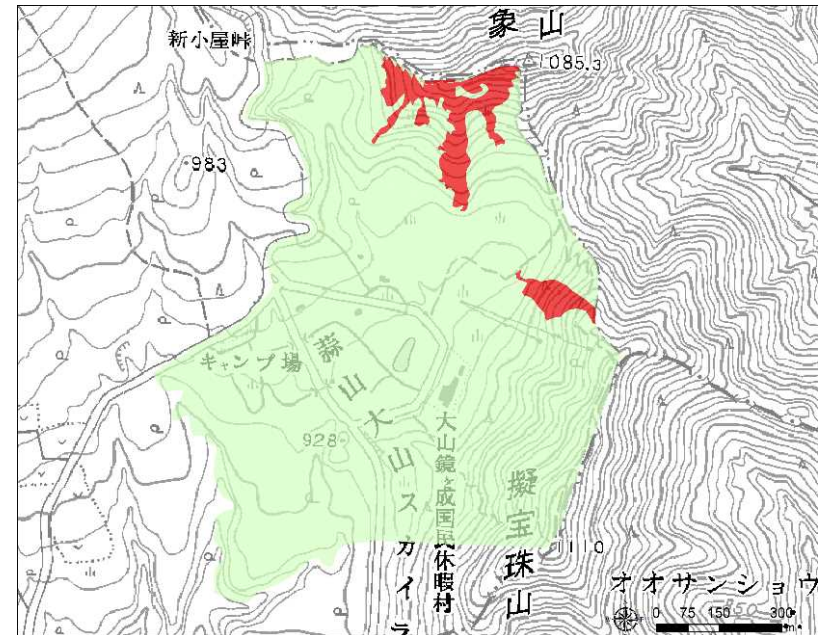
# ◆サワフタギ群落



(分布状況)

- ・概観：高さ2mの落葉広葉低木林
- ・階層構造：2～3層
- ・種組成：低木層にサワフタギが優占し、イボタノキなどが生育する。草本層にススキ、ヨモギ、サワフタギ、ハイイヌツゲ、イタドリ、チゴユリなどが生育する。
- ・出現種数：5～11種（平均：8種）
- ・地形：斜面下部 標高：920～930m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：鏡ヶ成草地周辺
- ・人為的影響：かつて牧草、採草地として利用されていたが、放棄され遷移が進んだ。
- ・遷移：ミズナラ群落へと遷移していくと考えられる。

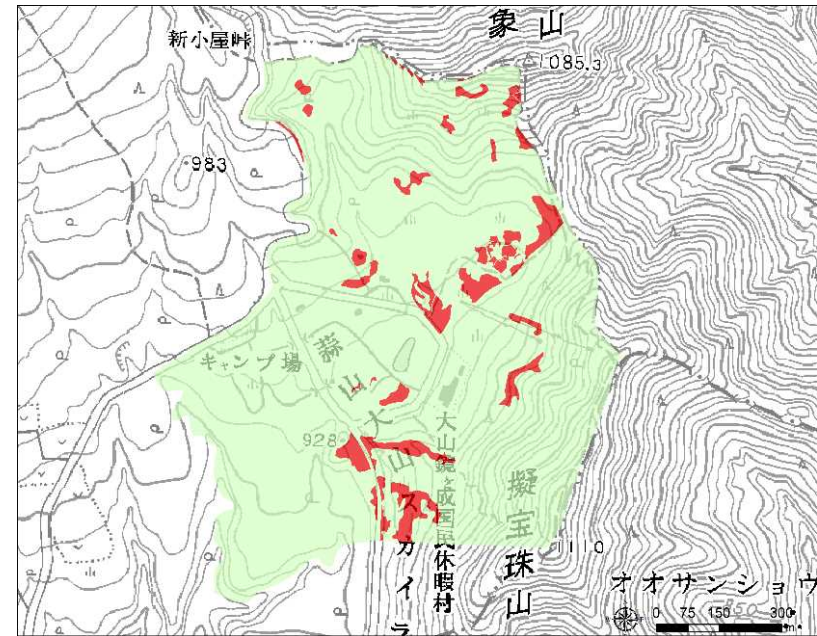
## ◆ 低木群落



(分布状況)

- ・概観：高さ1.5mの落葉広葉低木林
- ・階層構造：2～3層
- ・種組成：低木層にハイイヌツゲ、ヤマヤナギ、リョウブ、ノリウツギなどが混生する。草本層にチマキザサ、ススキ、クロモジ、シシガシラなどが生育する。
- ・出現種数：11～17種（平均：14種）
- ・地形：谷 標高：1030～1050m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：象山の山頂付近に分布する。
- ・人為的影響：かつて牧草・採草地として利用されていた。かつて象山に存在したリフト跡にも成立している。
- ・その他の特徴：尾根部の乾燥した場所に分布。
- ・遷移：ミズナラ群落に遷移すると考えられる。

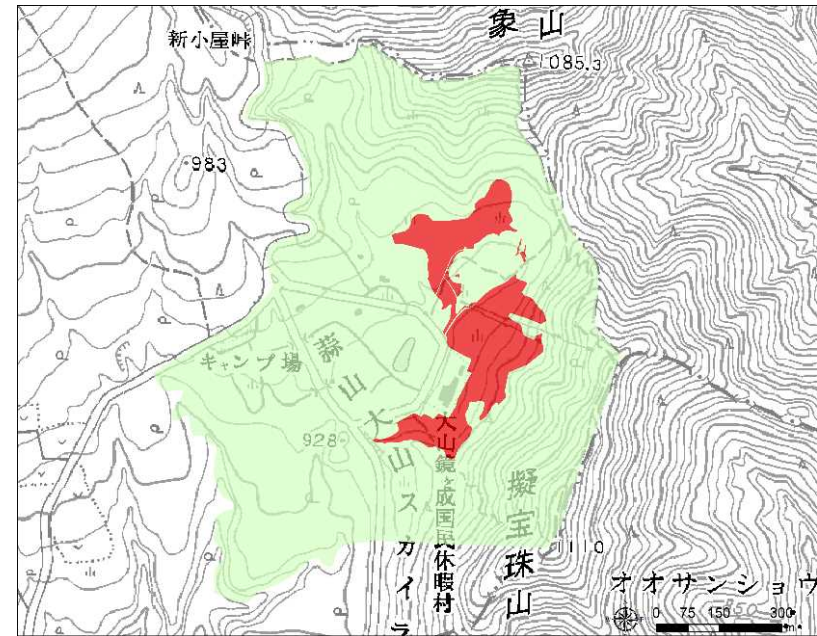
## ◆ササ群落



(分布状況)

- 概観：高さ1.5～2mの草地
- 階層構造：1～2層
- 種組成：草本層にチマキザサやチシマザサが優占し、ムラサキマユミ、ハイイヌツゲ、シシガシラ、ツルシキミなどが生育する。
- 出現種数：1～7種（平均：3.6種）
- 地形：斜面上部から斜面中部 標高：920～1050m 土壌：黒ぼく土
- 分布：象山や擬宝珠山、鏡ヶ成湿原などに点在
- 人為的影響：かつて薪炭林や牧草・採草地として利用されていた。
- 遷移：ササが密生している場所は、当面この状態で持続していくと考えられる。

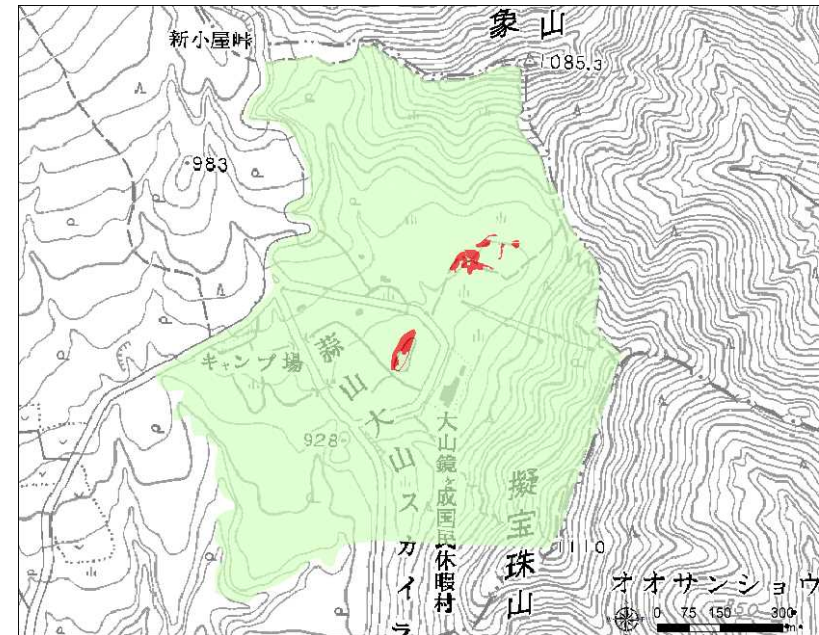
## ◆ススキ群落



(分布状況)

- ・概観：高さ1.8mの草地
- ・階層構造：2層
- ・種組成：草本層にススキが優占し、ミツバツチグリ、アキノキリンソウ、タチツボスミレ、チゴユリなどが生育する。
- ・出現種数：3～12種（平均：8.6種）
- ・地形：斜面中部 標高：920～930m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：鏡ヶ成湿原北側と擬宝珠山のスキー場に分布
- ・人為的影響：擬宝珠山ではスキー場として利用、管理されている。象山の麓もススキ草地として管理されている。
- ・遷移：管理されなければミズナラ群落へと移行する。

## ◆ 湿生植物群落

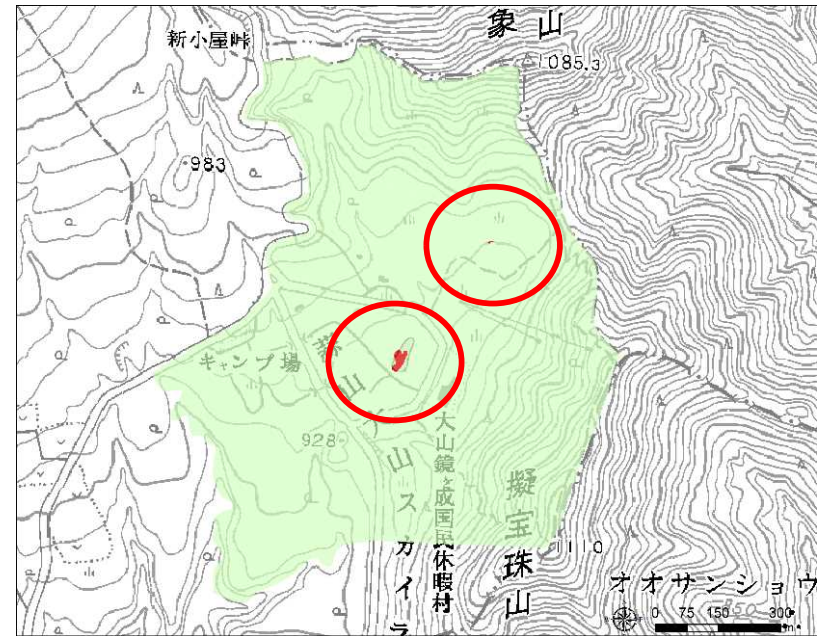


(分布状況)

- ・概観：高さ0.3～1.6mの湿地草地
- ・階層構造：2層
- ・種組成：草本層にオオイヌノハナヒゲやキセルアザミ、アブラガヤなどが優占し、カキラン、チゴザサ、トモエソウ、モウセンゴケ、ノハナショウブなどが生育する。
- ・出現種数：2～15種（平均：7.9種）
- ・地形：斜面中部 標高：820～900m 土壌：黒ぼく土
- ・分布：鏡ヶ成湿原に分布
- ・人為的影響：定期的に湿原管理が行われている。
- ・遷移：一部乾燥化により陸化している場所があるため、放置すると湿原が縮小する可能性がある。



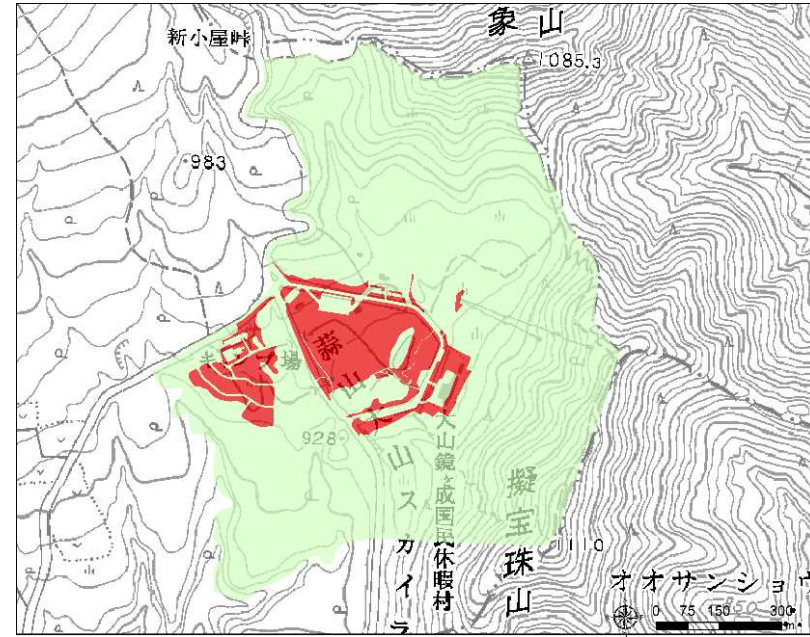
# ◆ヒルムシロクラス



(分布状況)

- 概観：高さ0.1mの水草群落
- 階層構造：1層
- 種組成：草本層フトヒルムシロが優占する。
- 出現種数：1～2種（平均1.3種）
- 地形：斜面中部 標高：910～920m 土壌：黒ぼく土
- 分布：鏡ヶ成湿原内や広場内の池に分布
- 人為的影響：広場の池はこれまで何度か掘っている。

# ◆シバ群落



(分布状況)

- 概観：高さ0.1mの草地
- 階層構造：1層
- 種組成：草本層にシバ優占し、チチコグサ、コナスビ、オオバコ、セイヨウタンポポ、コハコベなどが生育する。
- 出現種数：5～8種（平均：6.5種）
- 地形：平地 標高：910m 土壌：黒ぼく土
- 分布：グラウンドに分布
- 人為的影響：広場として定期的な管理がされている人工草地。